



ありあけ

2022(令和4)年
1月1日(土)

教員も学び手

校長 前嶋 正秀

全校保護者の皆様、生徒の皆さん、新年明けましておめでとうございます(喪中の皆様におかれましては、冒頭のあいさつとして不適切であり、非礼をお詫び申し上げます)。旧年中は本校の教育活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて今年最初の学校だよりは、自分が常々考えている「教師も学び手である」ということに関連して、本校の教員間で行われている「ブッククラブ」という勉強会について紹介させていただきます。日常的に教員は多忙との戦いですので、たくさんの教員が参加することはなかなかできていませんが、通常の授業が行われない時期を中心に、比較的若い世代の教員が音頭を取り、不定期で行っている取り組みです。

これは文字通り、教育分野に関する1冊の書籍をネタにして、参加者がそれぞれあらかじめその書籍(の指定された章)を読み、個人が感じたこと、考えたこと、気づいたこと等を、事前に共通のドキュメントにコメントしておきます。そうしておいて全員が集まったときに、そのドキュメントをシェアしながら、また各教員のコメントに言及しながら、著者の主張を一緒に考えたり、共感したり、時には異を唱えたり、ということをする活動です。

私が最近参加したブッククラブは、深い学びを引き出す授業法について書かれた著書を読んだ勉強会でしたが、事前に書かれたドキュメントを見ると、それぞれの教員にとって気になる箇所、共感できる箇所、等の記述もさまざまであり、さらにその記述について付してある、他の教員のコメントも多岐にわたっていて非常に興味深いものがあります。

この活動のメリットは、まずはそれぞれの教員が学ぶ機会や姿勢を持てるということです。これは教員の在り方として根本的に大切なものです。そしてこれだけでなく、1人で読むよりも同じ著書を複数の人間で同時に読み、その感想などをシェアする方が、学びに広がりや深まりが生じます。個々の教員が感じたり、学んだりすることはまちまちですが、自分がこれまで当たり前に思っていたことや、当然だと信じて疑わなかった価値観等を、他の教員の意見や思いを聞くことで改めて考え直したり、学びなおしたりすることができるメリット、と言い換えてもいいでしょう。このメリットは、例えば授業であっても、日常的な生徒との対話であっても、それまで当然「正しい」と思っていたものが、必ずしも常に正しいとは限らない、ということに気づいてこれらを見直す、ということにつながっていくことができます。現実的には、書籍に書かれてある筆者の主張を受け止めて、実際の教育活動の場面に落としこむというのは、言葉で言うほど簡単なことではありませんが、このように、生徒の皆さんとの接し方にフィードバックすることで、本当の意味でのメリットになると言えるでしょう。

タイトルの「教員も学び手」というのは、これからも大切にしていきたい考え方ですので、可能な範囲で教員にとっての学びの機会を確保できればいいと思っています。

12月のご報告

本校ホームページ「最新情報」ページをご覧ください。

【高校新クラスの日常】第31号 3Aにインタビューしてみたよ!

【サッカー部】活動報告

【中学2年】ドローンの特別講座

【翠光会】本年の活動について

【読売新聞オンライン】【NettyLand】で本校を紹介していただきました

他

*今後の予定については、急な変更の可能性もありますので、学校からのメール連絡等をよくご確認ください。

次回は2/1(火)発行予定です。(広報部)